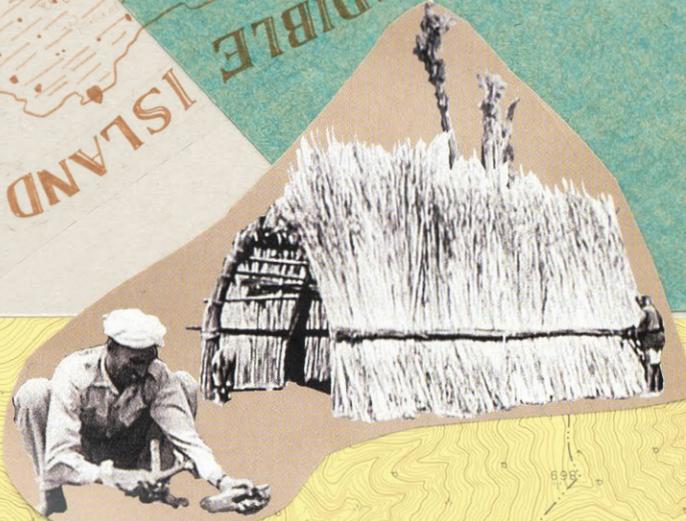


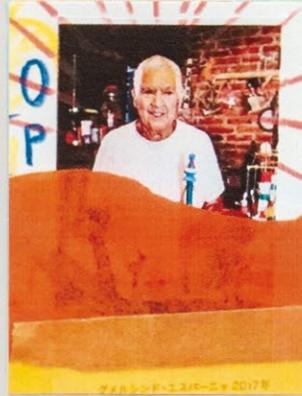
生活工房  
 アニュアルレポート  
 2018



EXHIBITION



April 2018 - March 2019



Lifestyle Design Center  
 Annual Report 2018

生活工房スタッフブック



WORKSHOP



SEMINAR



LOCAL COMMUNITY

世田谷文化生活情報センター  
 生活工房  
 Lifestyle Design Center



公益財団法人せたがや文化財団 生活工房  
 154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1  
 電話：03-5432-1543 <http://setagaya-ldc.net/>



# Lifestyle Design Center Annual Report 2018

April 2018 – March 2019



鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展「鳥の巣がおしえてくれること」会場風景 撮影：高橋宗正

# 暮らし×デザインの交流拠点

物や情報が溢れる時代。  
生活工房は「モノ」だけでなく  
「コト」に光をあて、  
小さな物語に耳を傾けます。  
観たり、触ったり、  
感じたりする体験を通して、  
本当の豊かさとは何か、  
文化とは何かを問いかけます。

Lifestyle Design Center is  
the crossroad of life and design.

In an age overflowing  
with things and information.  
Lifestyle Design Center illuminates  
the intangible as well as the tangible,  
paying attention to small stories.  
Through the experience of seeing,  
touching, and sensing,  
we ask: what is true abundance,  
what is culture?

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー」「地域と市民活動」の  
4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center primarily supports the four programs  
of exhibitions, workshops, seminars, and local and regional activities.

社会を知る、学びを楽しむ  
Understanding Society, Enjoying Learning

## セミナー SEMINAR



専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れるさまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Experience living words on life and culture in various lectures and talk events given by specialists and creators.

新たな発見が暮らしを彩る  
New Discoveries Embellish Daily Life

## 展覧会 EXHIBITION



生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

Exhibitions on diversified themes such as design, crafts, and foreign cultures are held in the Seikatsu-Kobo Gallery and the Workshop Rooms.

地域とつながる  
Connecting with the Region

## 地域と市民活動 LOCAL COMMUNITY



地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

We assist with region-building by supporting area and regional activities and exchange, widening the circle of various values and sympathies, and creating vibrant networks.

多彩なモノづくりを楽しむ  
The Joy of Making Things

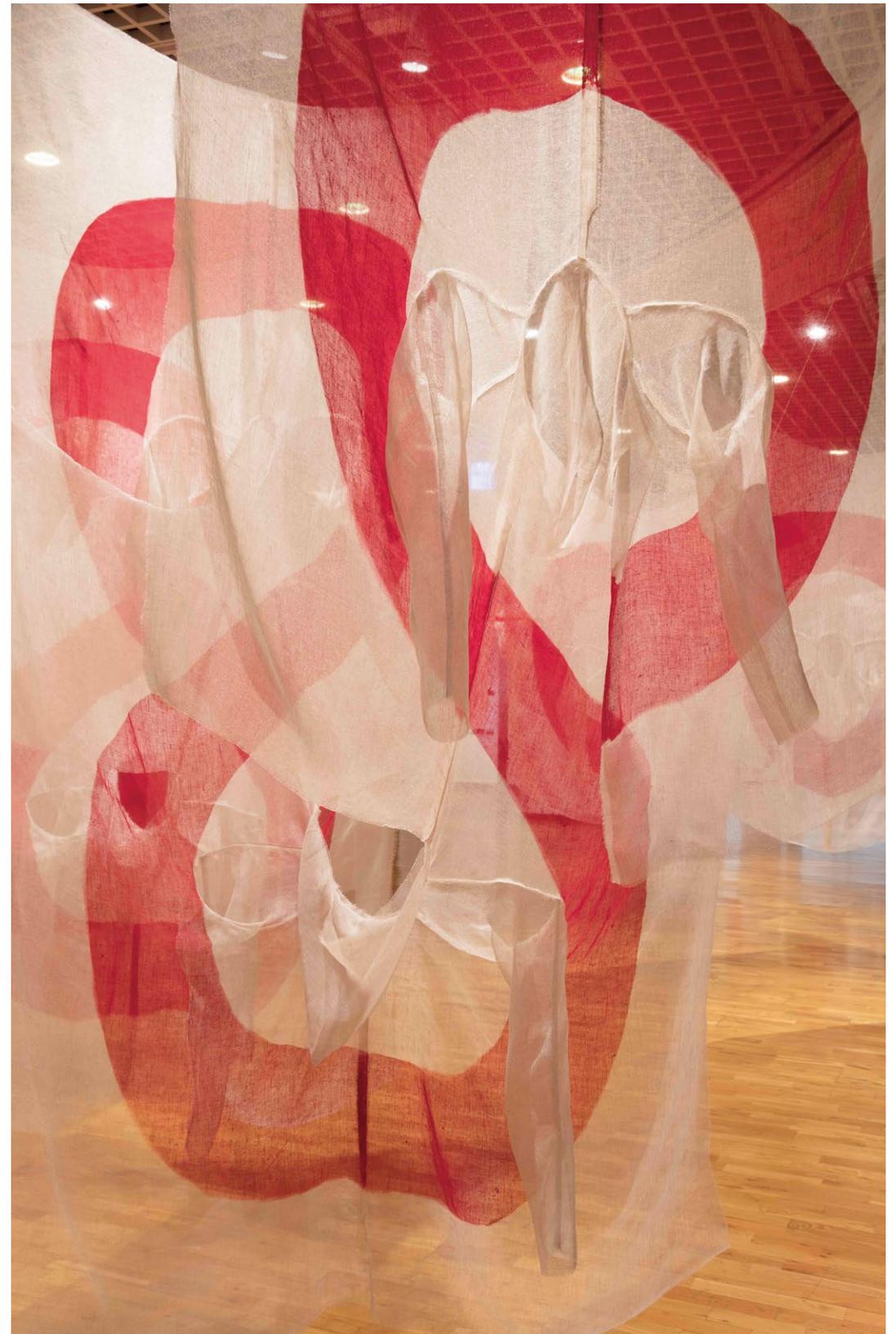
## ワークショップ WORKSHOP



参加者が手や体を動かしながら「考え」「作る」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

A variety of programs are held where participants of all ages can move their hands and bodies as they enjoy "think" and "make" workshops.

2	生活工房とは
3	生活工房の事業
5	目次
6	<b>特集 生活工房スクラップブック2018-2019</b>
32	生活工房の一年
35	<b>EXHIBITION [展覧会 事業報告]</b>
36	DAYS JAPAN 写真展 2018 地球の上に生きる 世界の未来をつくるために
37	折紙生活展——もしも折紙が日常に折り込まれたら!?
38	鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展「鳥の巣がおしえてくれること」
39	クライム・エブリ・マウンテンvol.2「漆がつかなく、アジアの山々」
40	春日明夫コレクション 人はあそぶ——メキシコ民芸玩具展
41	眞田岳彦ディレクション 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて
42	新雪の時代——江別市世田谷の暮らしと文化
43	映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく
45	<b>WORKSHOP [ワークショップ 事業報告]</b>
46	夏の子どもワークショップ2018 14歳のワンピース
47	夏の子どもワークショップ2018 創作楽器ワークショップとティコポのガラクタ音楽会
48	夏の子どもワークショップ2018 日常探検 LABO——ふくらむ! ポップコーンのふしぎ編
49	夏の子どもワークショップ2018 食べられる物語——エディブル・アイランド!
50	日常を見限らない——音と身体のワークショップ
51	<b>SEMINAR [セミナー 事業報告]</b>
52	哲学対話 PARA SHIF パラシフ
53	2020年開催展覧会・ブレ企画「陸前高田の記録を読みなおす/声に出す」
54	生活工房×イシス編集学校 情報編集力連続講座vol.5 キーワードからはじまる「自分らしさ」の編集術
55	NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座 組織づくりのためのヒント/コツを学ぼう!!〈広報編〉
56	朗読講座 豊かなことばの世界
57	<b>LOCAL COMMUNITY [地域と市民活動 事業報告]</b>
58	おはなしいっぱい
59	穴アーカイブ: an-archive
60	世田谷アートフリマ/市民活動支援コーナー
61	世田谷市民活動支援会議/国際交流 IN せたがや2019
62	生活工房施設ガイド
64	生活工房データベース/つぶやきから見る生活工房
66	生活工房のフライヤー
72	協力先一覧



「眞田岳彦ディレクション 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて」会場風景 撮影：永禮賢

2018-2019

## 生活工房スクラップブック

生活工房ウォッチャーとして知られるN氏。  
そして生活工房で行われる  
事業をつぶさにチェックし、  
まとめられている一冊のノート……。

今年度のアニユアルレポートの特集では、  
そんなN氏秘蔵のスクラップブックをご開帳。  
写真やチラシの切り貼り、覚え書きなどで  
にぎやかに彩られた生活工房の  
2018年度の「見聞録」です。

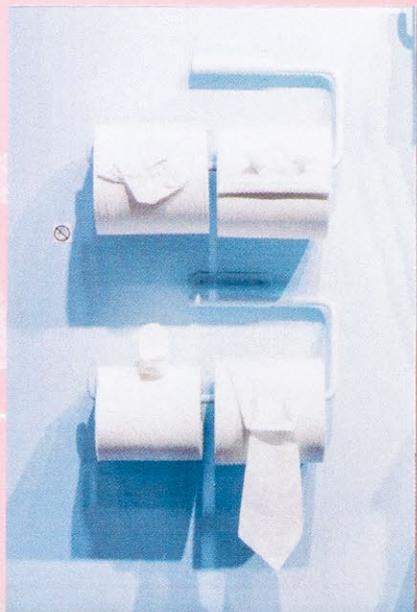
展示会に並んだ作品の詳細、  
ワークショップのプロセスや臨場感、  
そしてトークイベントで  
語られた言葉の数々。  
展示会に来場いただけなかった方も、  
イベントに参加いただけなかった方も、  
N氏の視点で追体験して下さい。



ペンギン © Kohei Nishimura



に折る  
あ、段々に折る



折紙の可能性を伝える新進気鋭のグループ「折紙創作集団スクエア」が、「いつものあれの端っこに折紙がひそんでいたら!？」というテーマで制作したオリジナル作品を展示。日常に取り入れられる、折紙遊びを提案。

# 折紙生活展 — もしも折紙が

日常に折り込まれたら!?



トイレットペーパーの端で折る、四葉のクローバー © Kohei Nishimura



2018 6.16-7.16

11. 広げて

13. カドを折る裏に折る

14. 完成

# 鳥の巣が おしえて くれること

鈴木まもる  
絵本原画と  
鳥の巣コレクション展

2018  
7.21  
土  
—  
8.26  
日

新しいのちをほぐむための工夫が  
つまっている「鳥の巣」。絵本作家  
鳥の巣研究者でもある鈴木まもる氏の  
絵本『世界の鳥の巣の本』より原画と  
鳥の巣の実物を展示。「人は鳥から教  
わったことも多い」と鈴木氏。



ツリスガラの巣  
採集地：アジア・ヨーロッパ  
羊の毛をつついてフェルト状にし、袋状の巣をつくる。寒冷地域に生息しているから卵やヒナが寒くならないように暖かい仕様。羊のいない場所では植物の穂を使う。



ハシブトハタオリの巣  
採集地：アフリカ  
川の中に生えているアシの茎などに巣をつくる。ワニは小さな鳥は食べないので、卵やヒナを守るために川の方が安全。

オナガサイホウチョウの巣  
採集地：東南アジア  
クモの巣から糸をとり、葉に穴をあけ、クモの糸で筒状に縫い合わせる。サルなどに見つからないようにするため。昔の中国の人は、この中に大切なものを入れたそう。



キムネコウヨウジャクの巣  
採集地：東南アジア  
サルが近づけないように枝先に巣をつくる。ヤシの葉を細く裂き、籠のように編んだ巣で、妊婦さんのおなかの形と同じ。メスは結婚前にオスの巣作りをチェックしているので、巣作り下手なオスはモテない。



# 14歳のワンピース

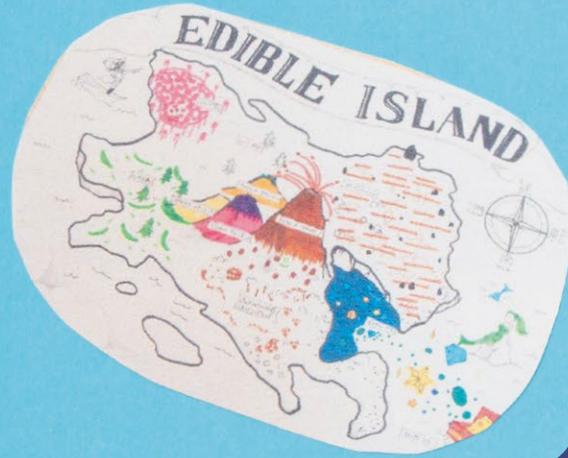
中学2年生女子対象の、“14歳の私”を記録したワンピースをつくるワークショップ。好きな言葉からイメージを膨らませ模様をデザインし、布にプリント。その布は工場で作られ、後日、着用して撮影会も行った。



好きな言葉からイメージした形を、折紙やカラーセロファンで切り抜く。その形を組み合わせてデザインしていく。

2018 7.27 & 29, 8.25

# 食べられる物語



砕いたアメを溶かして  
星型に固めて吊った  
「キャンディ・スター」

チョコクッキーを  
土のように砕いた  
「ガーデンチョコ」

4色のゼリーで  
つくった宝石の海  
「ジュエル・ベイ」

シフォンケーキでできた山に  
溶かしたチョコレートが入った  
「チョコレート・ボルケーノ」  
抹茶パウダーで苔を演出

2018 8.27, 28

小学3年生～6年生を対象に「食べ物であそんではい  
けません」の反対を思いっきり楽しむワークショップ。  
さまざまな食材や調理法でカラフルに彩られた“食べ  
られる島”（エディブルアイランド）をつくる。

# エディブル・アイルランド!



「きょうりゅう化石の  
はくつげんば」では  
きな粉の中に埋めた、  
メレンゲでできた  
恐竜の化石を発掘

紫キャベツの  
ビヨルスでできた  
「ビヨルス・キャニオン」

ポテトサラダでできた  
「ポテサラ・マウンテン」と  
キャロットラペでできた  
「キャロット・マウンテン」

ひよこ豆のペースト・フムスと  
ビーツで色つけた  
「ピンク沼」

リンコンの  
葉揚げでできた  
「リンコン苗畑」

# 漆がたぎるアジアの山々

クライム・エブリ・マウンテン vol.2

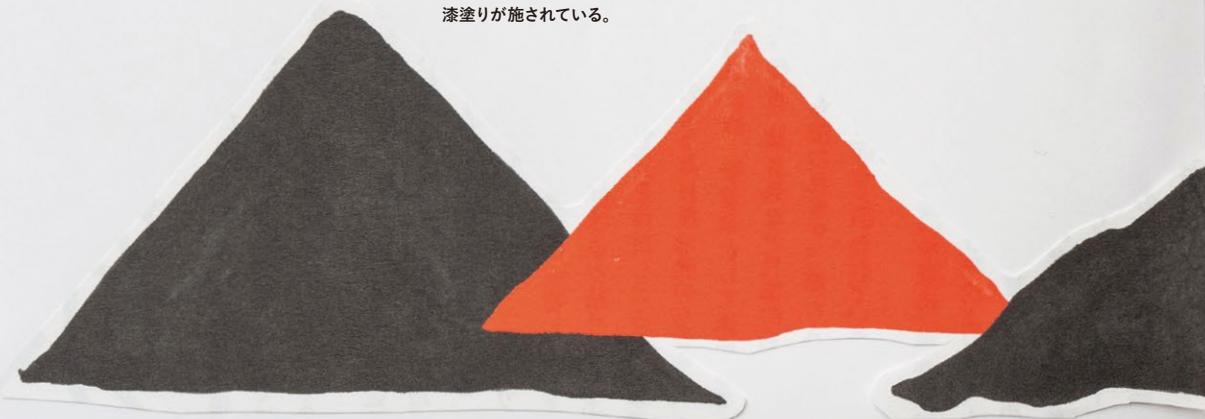
2018 9.1-10.21



中国（四川省）1998年  
凉山イ族の酒入れ容器と盃、盆。



ミャンマー 年代不明  
絵で表現された仏典。表紙に  
漆塗りが施されている。



世界各地の民族の装いや道具、所作を撮影・研究してきた井上耕一氏が所蔵する漆製品約130点を現地の写真や映像も交えて展示。ウルシ科の樹木で（漆として樹液が使用できる種はアジアの山間部にのみ生育。

ミャンマー（ミンカパー）1999年  
器面に文様を線彫りし、その中に  
色漆を充填して、乾いたのちに研  
ぎ出す技法「キンマ」装飾のタバ  
コ入れ。



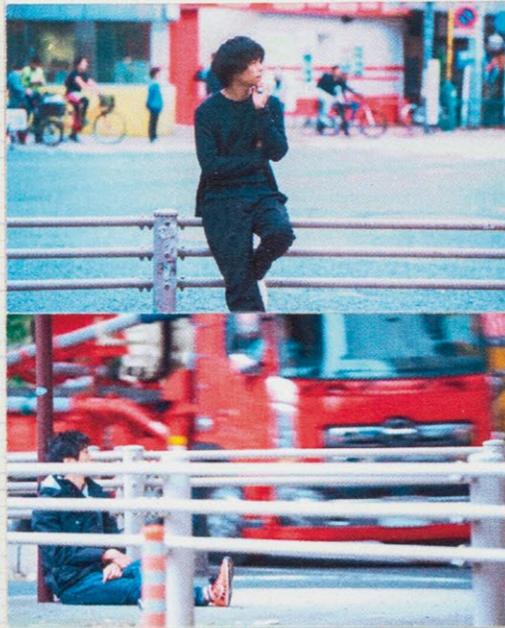
ベトナム（ハノイ）1996年  
竹を編んだ小物入れ。



ミャンマー（アマウブラ）1999年  
托鉢僧が用いる漆器。



ミャンマー（ニャウンウー）1999年  
民家で使われている漆塗りのカゴ。



講師：山崎広太（振付家／ダンサー）



10.13, 14

III 【Workshop：身体】《実践》

国道にたたずみ、何を想像するか、何を感じるか。  
日常と非日常、パフォーマンスと普通の動作の境界は何か。



12.1

IV 【Documentary：上映会】《振返り》



ホームページでは未公開の「Documentary：本編（88分）」をご覧ください。

9.9



I 【Talk：私たちは日常空間をどのようにとらえているか】《理論》

〈見る〉以外の方法で世界を捉えなおしてみる。  
人はそれぞれ他者と異なる認識をしている。



講師：伊藤亜紗（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授）



9.29, 30

タスクによって聴き取る音にどんな違いがある？

1. 部屋の音を聴く
2. 好きな音がなっている風景を描く
3. 本の朗読
4. 音をつくる

II 【Workshop：音】《気づき》

周囲にあふれる音を、無意識に取捨選択して聴き取っていることを体感する。



雨音というのは、雨の一粒一粒の集合

何かと何かがあつたからないと音は発生しない

フィールドレコーディング

自分しか聴こえていないと思う音を探して録音する

↓  
参加者が収集した音を素材に講師が即興でライブ演奏ドキュメンタリーでも使用される



講師：永田壮一郎（音楽家／作曲家）

日常を見限らない音と身体ワークショップ

研究者やアーティストとともに五感をフル活用し、生活の中で起っていることと丁寧に向き合う方法を学び・体験することで、見落とされた無数の出来事を味わい直すワークショップ・シリーズ。

10/27(土)~12/9(日)

春日明夫コレクション

# 人はあそぶ

# メキシコ玩具展



木彫。アニリン染料で着色。  
「鶏」2017年/ファミリー/オアハカ州



ハンベルマンシリーズ。ひもを引くと手足が動く。  
「ガイコツのハンベルマン」1980年代/作者不明/オアハカ州



クネクネする。  
「へび」1970年代/作者不明/グアナファト州



ひもを引くとガイコツが出てくる。  
「棺桶のガイコツ」1980年代前半/作者不明/オアハカ州

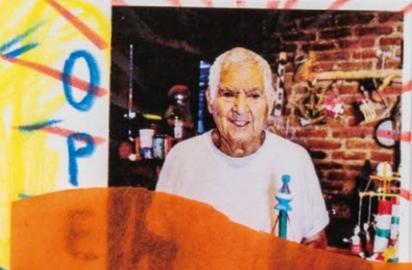


自転車遊び。  
「ガイコツの三輪車乗り」2017年/グメルシンド・エスパーニャ/グアナファト州

造形教育学の視点から世界の玩具を蒐集する春日明夫氏のコレクションより、メキシコ・グアナファト州の玩具職人グメルシンド・エスパーニャの作品を中心に、可愛らしくユーモアにあふれる玩具を展示。



扉を開けると……ガイコツが踊る。  
棺桶のガイコツも起き上がる。  
「ガイコツの結婚式」1980年代/フェリーベ・ゴメス/オアハカ州



グメルシンド・エスパーニャ 2017年

# 文様を訪ねて

衣服造形家・真田岳彦氏が、「祝いのほじまり」を表象する縄文、弥生、古墳時代に描かれた文様・図柄を訪ね、日本人が伝承する「願い」と「祈り」、そして「祝いの心」を考察し、作品を制作、展示。



古代における根源的文様である「円」。自然現象は円転を繰り返し大きな力になる。植物の繊維をねじる（円転）と縄のように強くなる。「円転」の力を「円」や「渦」という文様におきかえ、魔の障りを防ぐために顔や身体に呪文のように印し、土器や祭器には、円転を加えたことにより神聖な力が宿った縄を圧痕し、その力を移したのではないだろうか。

23



袖やフードが付いており、衣服作品にもなる。



作品のベースとなるのは四角い麻布に赤い円を描いたもの。その布を連続、連結させることで赤い円は螺旋を描き、文様になる。

22

2018 12.19—2019 1.20



《陽だまり》山形トム  
 1985年の開村40周年記念式典をきっかけに世田谷区が購入。



世田谷青年会が設立した集会所「世田谷倶楽部」。敷地内には記念碑も建立。



《家畜ビート》山形トム／1977年  
 ビートは砂糖の原料となる北海道畑作の基幹作物。作者の家族が飼料用のビートを栽培する様子。



最寄りのバス停。

山形トムさんは世田谷区砦から渡った開拓2世。東京では役者の父とともに、子役として活動していた。身近な農業の風景から着想を得た作品を描く。



《風雪》山形トム



《羊群》山形トム／2016年  
 羊は作者の代表的なモチーフの一つ。



〈世田谷〉の面積は約270ヘクタール。世田谷区の約21分の1となる範囲に、33世帯が入植した。



《馬耕》山形トム  
 洋式農機具であるプラウを馬に引かせて土壌を耕す、北海道の開拓期の一般的な農作業「馬耕」。

## 新雪の時代

江別市世田谷の暮らしと文化

2019 1.26-3.10

北海道江別市に位置する、もう一つの世田谷。1945年7月、食糧増産を目的とする「拓北農兵隊」として、世田谷区から入植した33世帯がその名の由来。作品や資料をとおして北の世田谷を紹介する初の展覧会。



## 2.9 自由

自らの心身を  
貫く法則に  
うまく従うことが  
できるこそが自由  
選択肢が多い≠自由

自由の乱用が  
人間を不自由にする？

哲学者  
國分功一郎  
東京工業大学  
リベラルアーツ研究教育院教授



哲学の勉強で大切なのは、  
概念を身につけて、  
それを自分で  
使えるように  
なること

いったい自由な人間の像を打ち立てるとい  
ったただそれだけのことにですら、  
哲学以外の何に興味を持つというのか？  
いったい哲学以外の何が、自らの権力を定着させるべく  
神話と魂の混乱とを必要とする  
あらゆる力を弾劾することに関心を持つというのか？  
(ドゥルーズ『意味の論理学』河出文庫 下巻、2007年、178頁、國分訳)

すべての  
意志には  
原因がある

「本当に悪いと感じる」とは  
「責任を果たす」とは  
どういうことなのか？

## 2.2 中動態

意志という概念は、  
おびたしい  
因果関係を切断し、  
行為をムリヤリ  
主体に帰属させ、  
責任を問うための  
根拠となっている

## 哲学対話 PARASHIF パラシフ

2019  
2.2, 2.9

当たり前と思っている考え  
方がガラリと劇的に変わる  
パラダイム・シフト（パラ  
シフ）。哲学者・國分功一  
郎氏との対話から、日々の  
生活にパラシフを起こすこ  
とを目指す、大人のための  
哲学ゼミナール。概念「中  
動態／自由」のレクチャー  
を受けた後、全員で哲学対  
話を行った。

現代の言語は、自発的なのか  
強制されているのかを、  
どうしても区別したがる。  
古代ギリシアには  
意志という概念がなかった。

生活工房ホームページ内「哲学対話パラシフ」のプログラムページにて5月上旬公開予定です。



出来上がった帽子たち

**映像のフィールドワーク展**  
 20世紀の映像百科事典をひらく  
 2019 3.16—4.7

1952年にドイツの国立科学映画研究所で始まった、世界中の知の記録を集積するプロジェクト「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ（ECフィルム）」。その映像群から「音楽」「料理」「儀礼」などをテーマに80作品を会場に投影した参加型の展覧会。



ミクロネシアの漁師はこんな感じで帽子をかぶる



漁師の帽子をかぶった女の子

ECフィルムを〈ゲスト研究員〉とともに研究する「ECラボラトリーズ!」。この日は「ミクロネシアの漁師の帽子を編む」。「漁撈用の帽子編み」(ギルバート諸島ノヌーティ環礁/ミクロネシア人/1965年)の映像を何度も見ながら、見よう見まねで帽子を編んだ。

# 穴アーカイブ: an-archive

昭和30〜50年代に家庭へと普及し、当時の暮らしを記録した「8ミリフィルム」。その収集・公開・保存・活用していくプロジェクト。映像を観ながら語り合う小さな集い「せたがやアカカブの会」も4年目。



ご紹介した映像は、穴アーカイブが製作したウェブサイト『世田谷クロニクル』でご覧いただけます。

「せたがやアカカブの会」上映会の様子



敏系栄も  
謳歌する時代の  
アメリカンライフ

1958 (昭和33)年7月頃○ニューヨ  
ークなど○モノクロ/カラー○7分

アカカブの会での回想

当時、何歳ぐらいでした？

33年だと、私が23年生まれなんで、ちょうど10歳ですね。一番ショックを受けたのは、これなんですよ。多分、マクドナルドのドライブスルーだと思うんですよ。

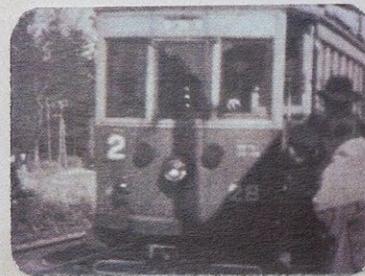
行くとき、パーキングに止めて、食べて行くという感じですか。

止めて、注文して、そこで食べて、出ていくというスタイルですね。

すぐスルーしないんですね。止まっているんですね。



初  
春  
日  
記



1938 (昭和13)年正月(推定)○自宅(世田谷)、宮の坂、世田谷八幡宮など○モノクロ/カラー○7分

アカカブの会での回想

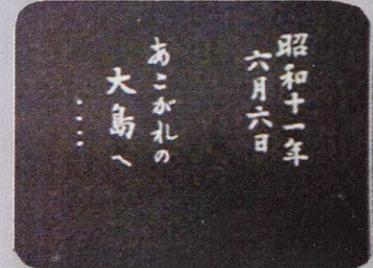
ままごとかと  
思っていたんですけど、  
本当の債券なんですかね。

子どもに  
投資するという、  
なんか冗談というか  
例えとして  
愛国債券という  
言い方を  
しているのかと  
思ったら、本当に  
あったんですね。

だって、この家の住宅、  
建物が、非常に立派



1936 (昭和11)年6月6日○大島○モノクロ○7分



あ  
こ  
が  
れ  
の  
大  
島  
へ

『あこがれ』って  
いうふうに  
タイトルがあったと  
思うんですが、  
銀座に行くみたいな  
格好をして、人が。  
今は自然のある  
所に行くのに、  
リラックスするために。

アカカブの会での回想

3.23 - 4.15	市民活動支援コーナーの日々展2018	LOCAL COMMUNITY
4.19 - 5.13	夏の子どもワークショップ2017 報告展 14歳のワンピース展	EXHIBITION
4.21, 22	世田谷アートフリマ vol.29	LOCAL COMMUNITY
5.19 - 6.10	DAYS JAPAN 写真展 2018 地球の上に生きる 世界の未来をつくるために	EXHIBITION
6.16 - 7.16	折紙生活展——もしも折紙が日常に折り込まれたら!?	EXHIBITION
6.21	第42回世田谷おはなしネットワーク講演会 絵本と鳥の巣の不思議	SEMINAR
7.21 - 8.26	鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展 「鳥の巣が教えてくれること」	EXHIBITION
7.21, 22	夏の子どもワークショップ2018 イシス編集学校×生活工房 大好きな本の伝えかた——読書感想文の編集術!	WORKSHOP
7.27, 29   8.25	夏の子どもワークショップ2018 14歳のワンピース	WORKSHOP
8.4	夏の子どもワークショップ2018 創作楽器ワークショップとティコポのガラクタ音楽会	WORKSHOP
8.12	夏の子どもワークショップ2018 日常探検 LABO——ふくらむ! ポップコーンのふしぎ編	WORKSHOP
8.22, 23, 24	おはなしいっぱい	LOCAL COMMUNITY
8.27, 28	夏の子どもワークショップ2018 食べられる物語——エディブル・アイランド!	WORKSHOP
9.1 - 10.21	クライム・エブリ・マウンテン vol.2 「漆がつかなく、アジアの山々」展	EXHIBITION
9.9   9.29, 30 10.13, 14   12.1	日常を見限らない——音と身体のワークショップ	WORKSHOP
9.22, 23	世田谷アートフリマ vol.30	LOCAL COMMUNITY

10.27 - 12.9	春日明夫コレクション 人はあそぶ——メキシコ民芸玩具展	EXHIBITION
11.11	エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ上映会 「住処をつくる」	EVENT
11.20	第43回世田谷おはなしネットワーク講演会 ブックトークPart1 子どもと本との出会いの場をつくる	SEMINAR
12.4   11	NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座 組織づくりのためのヒント/コツを学ぼう!! <広報編> 第1回「NPOだからこそできる広報の基礎」 第2回「今すぐ使えるチラシづくりのコツ」	SEMINAR
12.19 - 2019 1.20	真田岳彦ディレクション 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて	EXHIBITION
1.26 - 3.10	新雪の時代——江別市世田谷の暮らしと文化	EXHIBITION
2.2   9	哲学対話 PARA SHIF パラシフ	SEMINAR
2.12   19	NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座 組織づくりのためのヒント/コツを学ぼう!! <広報編> 第3回「伝えるコツ そうだったのか!」 第4回「伝えるコツ プレゼンテーション」	SEMINAR
2.16	国際交流 IN せたがや2019	LOCAL COMMUNITY
2.24   3.10   17	生活工房×イシス編集学校 情報編集力連続講座 vol.5 キーワードからはじまる「自分らしさ」の編集術	SEMINAR
3.10	穴アーカイブ: an-archive 8ミリフィルム鑑賞会 特別編	LOCAL COMMUNITY
3.16   17   23	2020年開催展覧会・ブレ企画 陸前高田の記録を読みなおす/声に出す	SEMINAR
3.16 - 4.7	映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく	EXHIBITION
6.20   8.29   10.24 12.5   2019 2.20	穴アーカイブ: an-archive せたがやアカカブの会	LOCAL COMMUNITY
10.25 - 12.25	プライベート・コレクション展 協力者募集	LOCAL COMMUNITY
	朗読講座 豊かなことばの世界	SEMINAR

EXHIBITION  
展覧会  
事業報告



「折紙生活展——もしも折紙が日常に折り込まれたら!？」会場風景 撮影：栗原論

変わり続ける世界の姿に、  
あなたは何を考えますか？



1



2



3



4

1 DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2018 第2位「ロヒンギャ難民 迫害から逃れて」より 撮影：ポーラ・ブロンスタイン (Getty images) 2 4F会場 3 3F生活工房ギャラリー 4 「日本人看護師が見てきたシリアの市民たち」講師：白川優子氏

## DAYS JAPAN 写真展2018 地球の上に生きる 世界の未来をつくるために

開催日時 2018年5月19日④～6月10日⑥ 11:00～19:00 (月曜休み、最終日17:00まで) 会場 生活工房ギャラリー/ワークショップルームB 来場人数 2,957名 共催 株式会社デイズジャパン 企画 株式会社世田谷社

関連企画 トークイベント  
「日本人看護師が見てきたシリアの市民たち」  
開催日時 6月3日⑥ 14:00～16:00 会場 セミナールームAB 講演 白川優子 (国境なき医師団 [MSF] 手術室看護師) 上映 第89回アカデミー賞短編ドキュメンタリー映画賞受賞作品「ホワイトヘルメット シリアの民間防衛隊」 参加人数 120名 参加費 無料

「報道写真」というメディアは、人に「考える」力を与えてくれる。  
本企画は、フォトジャーナリズム月刊誌「DAYS JAPAN」主催の「DAYS国際フォトジャーナリスト大賞2018」の受賞作の写真展。世界中から寄せられた1万点以上の作品から選ばれた写真は、世界中から問題、環境汚染、自然災害、砲火の戦場、人々の怒りや苦しみ、悲しみなどの感情で埋め尽くされていた。目の前に展示された写真は、この瞬間にも世界には過酷な現実を生きている人々が多く存在することを改めて痛感させた。ジャーナリストたちが命懸けで撮影した写真は、同じ時代を生きている私たちに向けた厳しい問いかけでもあった。  
「ジャーナリストが本心に伝えたかったこと」。混沌とした世界で、誰もが笑顔になれる理想的な答えはなかなか見出せないとしても、写真展やトークイベントで感じたことを一つのきっかけとして、これからも「生命の尊さ」「人権」について考えることを忘れて欲しくない。

展覧会

EXHIBITION

折紙で、生活の端っこに  
ユーモアを!!



書斎、トイレ、ダイニングに折紙が潜む

開催日時 2018年6月16日④～7月16日⑥ 9:00～20:00  
会場 生活工房ギャラリー 来場人数 4,917名 協力 折紙創作集団スクエア (柏村卓朗、西村光平、内藤優、大西いのり、森澤碧人、山本大雅)

関連企画 ワークショップ  
「トイレで芸術! トイレトペーパー折紙づくり」  
開催日時 7月15日⑥ ①13:30～15:00 ②16:00～17:30  
会場 ワークショップルームAB 講師 折紙創作集団スクエア 対象 小学1年生～大人 参加人数 計45名 参加費 1,000円

## 折紙生活展 もしも折紙が日常に折り込まれたら!?

折紙は、千年以上昔の「紙を美しく折って包む」という礼法から生まれ、発展した娯楽文化だ。子どもの遊びとして親しまれているのはもちろん、「ORIGINAL AMI」の名で世界に広がって、立体的で複雑な折紙もつくられるようになり、その手法は進化し続けている。

本展では、折紙の可能性を伝える新進気鋭のグループ「折紙創作集団スクエア」が、「いつものあれの端っこに折紙がひそんでいたら!?!」というテーマで制作した作品群で、「もしも」の折紙生活空間を演出し、日常に取り入れられる折紙遊びを提案した。

会場には紙コップの端にハート、トイレトペーパーの端に超絶技巧のフェニックスなど「あれに折紙」と、折紙でつくられた文房具や小便小僧など「あれが折紙」の、ハッと驚く、笑みこぼれる折紙作品を展示した。いつもの紙にユーモアを加えることで、笑いというコミュニケーションが生まれ、気持ちや伝えたい、生活の細部はもっと楽しくなることだろう。



3



2



1

1 展覧会タイトルも折紙で出来ている 2 トイレトペーパー折紙のワークショップ 3 トイレトペーパーのペガサス (1,3 撮影: 栗原論)



1 鮮やかな涼山イ族の器は、特に来場者の目を引いた 2 現地の嗜好品などを実際に漆器に入れて展示 3 満員となった井上氏のスライドトーク 4 ワークショップでは卵殻漆器の技法に挑戦 (1, 2 撮影: 牧野智晃)



EXHIBITION

展覧会

『ペン・ボン・パス』『せんろはつづく』など200冊近い絵本を手がけている絵本作家・鈴木まもる氏は、鳥の巣研究家としても活躍している。30年以上にわたり世界各地で鳥の巣を集め、研究し、数多くの著作で鳥の巣をさまざまな視点から描いてきた。

本展では鈴木氏が世界各地で集めた鳥の巣17点と、鳥の巣を描いた絵本原画25点のほか、鳥の巣をもとめて旅した際の写真やスケッチも展示。鳥の巣に埋め尽くされた圧巻の会場となった。

鳥の巣は、鳥の家ではなく、鳥が卵を産み育てるための場所。つまり鳥の巣は、妊婦さんのおなかの中のようなものである。巣のかたち、大きさ、材料、つくる場所、つくり方は、鳥の種類や生息地によってさまざまだが、どれも新しい生命を大切に育むための工夫がたくさんつまっている。もしかしたら人間は、鳥の巣に教わり、衣服や道具、家などをつくってきたのかもしれない——そんな鈴木氏の考察もあわせて紹介した。



1 キムネコウヨウジャクの巣が一番人気 2 さまざまな形の鳥の巣が並ぶ展示会場 3 ワークショップでは思い通りに鳥の巣をつくった 4 おはなしいっぱい会場内の原画展示 (2 撮影: 高橋宗正)

## 鳥の巣の「巣窟」のような展示会場



開催日時 2018年7月21日④～8月26日⑤ 9:00～20:00 会場 生活工房ギャラリー 来場人数 8,120名 協力 岩崎書店、金の星社、世田谷おはなしネットワーク、TSUTAYA三軒茶屋店、公益財団法人下中記念財団

3日間の特別展示  
開催日時 8月22日⑥～24日⑦ 11:00～15:00 会場 ワークショップルームB(「おはなしいっぱい」会場内)

関連企画1 ワークショップ  
「鳥の巣をつくろう」  
開催日時 8月1日⑧ 14:00～16:30 会場 ワークショップルームA  
講師 鈴木まもる(絵本作家・鳥の巣研究家) 対象 小学1～6年生(親子参加可) 参加人数 72名 参加費 500円(保護者は無料)

関連企画2 トークイベント  
「鳥の巣がおしえてくれること」  
開催日時 8月2日⑨ 14:00～16:00 会場 ワークショップルームA  
講師 鈴木まもる(絵本作家・鳥の巣研究家) 対象 小学生以上(親子参加可) 参加人数 102名 参加費 500円(中学生以下は無料)

## 鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展 鳥の巣がおしえてくれること

## うるしが うるおす、 山地の暮らし

## クライム・エブリ・マウンテンvol.2 漆がつなぐ、アジアの山々

ウルシ科の樹木は世界中に800種近くあるが、その中でいわゆる「漆」として樹液が使用できるのはほんの数種。その数種すべてが、日本から韓国・中国・ベトナム・タイ・ミャンマー・ラオス・ブータンにかけて続く照葉樹林帯の山間部に生育している。この地域の人々は漆を天然の防水剤、接着剤として活用し、食器や家具、住居、装身具など日常のものから、儀礼の道具や宗教建築にも使われてきた。

世界各地の民族の装いや道具、所作を撮影・研究してきた井上耕一氏は、1980年代よりそうした「漆文化圏」でもいうべき地帯に通い、写真におさめ、また漆器も収集してきた。

黒地に赤と黄の色漆を施す中国・涼山イ族の酒器、チベットやブータンのバター茶を入れる漆碗、黒く光るミャンマーの托鉢用漆器や漆塗りの絵解き経典など、井上氏所蔵のバリエーション豊かな漆製品約130点を現地の写真や映像も交えて展示し、漆とともに生きる人々の暮らしを紹介した。

開催日時 2018年9月1日④～10月21日⑤ 9:00～20:00  
会場 生活工房ギャラリー 来場人数 10,860名 特別協力 井上耕一 協力 公益財団法人下中記念財団、NPO法人丹波漆

関連企画1 スライドトーク  
「国境に分断された山地民を訪ねて」  
開催日時 9月8日④ 14:00～15:30 会場 ワークショップルームA 講師 井上耕一(デザインリサーチャー) 参加人数 74名 参加費 500円

関連企画2 「卵と漆のワークショップ」  
開催日時 9月15日④ 13:30～16:30 会場 ワークショップルームA 講師 うるしさん(漆作家ユニット) 対象 高校生以上 参加人数 19名 参加費 1,000円

関連企画3 上映会  
「日本の漆、ミャンマーの漆」  
開催日時 10月6日④ ①13:00～14:15 ②15:00～16:15  
会場 セミナールームAB 上映作品 「丹波の漆かき〜今に伝わる漆かきの技術」(NPO法人丹波漆)、「磯井正美のわざ——蒔絵の美——」(日経映像) 参加人数 計78名 参加費 無料



1



4



3



2

1 衣服造形作品「円際 en-sai」（作：眞田岳彦） 2 「祝いの象徴」江戸時代の着物に描かれた文様・図柄 3 世田谷区立郷土資料館所蔵の注口土器 4 日本各地の施設からの寄稿も紹介（1~4 撮影：永禮賢）

### 眞田岳彦ディレクション 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて

「赤」の色彩は日本独自の伝統色として、祝い事や厄払いなど、私たちの暮らしの多くの場面で用いられてきた。

連続企画展「赤をめぐる旅」では、衣服造形家の眞田岳彦氏が日本各地を訪ねて、日本人の「祝いの赤」について探究している。vol.3は、縄文・弥生・古墳時代から表象されてきた文様・図柄がテーマ。土器や祭事器に印された根源的な文様に込められていた人々の想いを考察した。

衣服造形作品「円際」は、素材で力強い文様の中でも、祝いと結び付きを感じる「円」や「回転」を表した文様をモチーフとした。会場では30点以上を連続して展開することで、「円」「螺旋」「波形」などさまざまな表情の文様が、赤の色彩で表現された。

会場では、訪れた各地の博物館からの寄稿や旅の記録も紹介。「祝いの象徴」として、江戸時代の着物に描かれた図柄や、現代の生活にも引き継がれている祝いの品々も展示し、古来、日本人が伝承する「願い」「祈り」を再認識する展示となった。

開催日時 2018年12月19日④～2019年1月20日⑥  
11:00～19:00（月曜休み） 会場 生活工房ギャラリー  
／ワークショップルームAB 来場人数 2,132名  
企画制作進行 SANADA Studio inc. 企画協力 女子美術大学美術館 寄稿・資料協力 王塚装飾古墳館、熊本県立装飾古墳館、滋賀県立安土城考古博物館、世田谷区立郷土資料館、八戸市埋蔵文化財センター—川縄文館

関連企画1 トークイベント  
「日本人と祝いの文様」  
開催日時 12月23日⑥ 14:00～16:00 会場 セミナールームAB 登壇者 内川隆志（國學院大學博物館副館長）、眞田岳彦（本企画ディレクション） 参加人数 46名 参加費 500円

関連企画2 ワークショップ  
「祝いのお正月飾りづくり」  
開催日時 12月28日⑤ ①10:30～12:30 ②15:00～17:00（各1回完結） 会場 ワークショップルームAB 講師 SANADA Studio inc. 参加人数 計28名 参加費 2,000円

### 玩具にあふれるメキシコのユーモア



1

1 メキシコの色彩を会場いっぱいに散りばめた 2 ユニークな表情の玩具 3 ガイコツが起き上がる玩具をつくるワークショップ（1 撮影：佐藤基）



3



2

開催日時 2018年10月27日④～12月9日⑥ 9:00～20:00  
会場 生活工房ギャラリー 来場人数 7,784名 協力 春日明夫、LABRAVA、メキシコ観光局、CHIDO PROJECT、横尾咲子 後援 在日メキシコ合衆国大使館

関連企画1 ワークショップ  
「おもちゃ博士と起きあがりガイコツ人形をつくらう!」  
開催日時 11月17日④ 13:00～15:00 会場 ワークショップルームA 講師 春日明夫（東京造形大学教授）  
対象 小学3年生～大人 参加人数 27名 参加費 500円

関連企画2  
¡Hola! メキシコな一日  
開催日時 11月18日⑥ 10:30～17:00 会場 ワークショップルームA  
I. 上映会「メキシコの死生観を想う」①11:00～12:00  
②15:30～16:30 上映作品「Ofrenda para las animas —魂への供物」(Ricardo Braojos 制作チーム)  
参加人数 計133名 参加費 無料  
II. トーク「メキシコ民芸——素朴とユーモアと宇宙」  
13:30～15:00 ゲスト 山本正宏 (LABRAVA店主)、春日明夫 参加人数 60名 参加費 500円  
III. 出張! メキシコ雑貨店 10:30～17:00



グメルシンド・エスパーニャ作の動く玩具（撮影：佐藤基）

### 春日明夫コレクション 人はあそぶ——メキシコ民芸玩具展

造形教育学の視点から世界の玩具を蒐集する春日明夫氏のコレクションより、メキシコ合衆国・グアナフアト州の玩具職人グメルシンド・エスパーニャ氏の作品を中心とした木製玩具を紹介し、メキシコの生活文化を伝えた。

グメルシンド氏はメキシコ民芸玩具の黄金時代を知る最後の職人だったが、残念ながら2018年2月に83歳で他界した。彼がつくる玩具は、ユニークなしかけがある魅力的な作品ばかり。1960年代～晩年までの貴重な玩具と、同時代のメキシコ各地の玩具約150点を展示し、会期中には玩具づくりのワークショップやメキシコの「死者の日」のドキュメンタリー上映会、トークイベントも開催した。

「玩具はいつも人間のそばに寄り添い、私たちに『あそび』という時間を与えてくれる。本展で紹介したメキシコの玩具はカラフルで素朴で愉快。日本の精緻なものづくりの良さとはまた別の豊かさを、世界の多様性を、私たちに教えてくれた。」



1



4



3



2

1 世界中の映像がキーワードごとに出現するインスタレーション作品《Diverse and Universal Camera》(制作：野口靖+ECわらしべ調査隊) 2 料理の映像はキッチンの中に。映像を真似て杵つきもできる 3 仮設のECフィルム研究所では映像の検索や関連資料を見ることができる 4 大画面で映像を体感できる展示スペース (撮影：中川周)

## 映像のフィールドワーク展

20世紀の映像百科事典をひらく

1952年にドイツの国立科学映画研究所で始まった「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」(以下、ECフィルム)は、世界中の知の記録を集積することを目指した、映像による百科事典。3000タイトル超の映像群に映っているのは、人間や生き物たちが命から命へと伝えてきた、普遍的な営みだ。フィルムの中に閉じ込められた物事をタイムカプセルのようにひらき、未来へと手渡ししていくことを目指して、本展を企画した。

会場内では、ECフィルムの映像群を「住処」「音楽」「料理」「儀礼」などのキーワードで拾い集め、大画面で投影。そこではただ「観る」だけでなく、映像の中の行為(ひもを縛う、踊る、鳴らすなど)を「やってみる」ことができる。連日「ゲスト研究員」が現れて来場者とともに研究を深め、その痕跡が蓄積されていき、会場は会期の3週間の間に大きく様変わりした。誰もが映像を手軽に残せる現代、その意味と行く末を問い、投げかける展覧会となった。

開催日時 2019年3月16日④~4月7日⑥ 11:00~19:00 (月曜休み) 会場 生活工房ギャラリー/ワークショップルームAB 来場人数 3,750名 (3月31日現在) 特別協力 公益財団法人下中記念財団 企画制作 EC活用プロジェクト(下中菜穂、丹羽朋子、中植きさら)、野口靖協力 株式会社ガレゴレ東中野、株式会社東京シネマ新社、NPO法人アートフル・アクション、NPO法人FENICS、東京工芸大学芸術学部ソフトウェアデザイン研究室、女子美術大学芸術文化ゼミ(芸術人類学)、昭和のくらし博物館、国際あやとり協会、柳とあそぼう引地川、川瀬慈、村瀬勲、宮下美穂、吹山なみほ、ECラガビも部、ECわらしべ調査隊

関連企画1 トークセッション  
「とる、みる、つかう。」  
——暮らしの中の記録と表現、その現在形——

開催日時 3月24日⑥ 14:00~16:30 会場 セミナールームAB トーク 下中菜穂 (EC活用プロジェクト/造形作家)、松本篤 (remo[NPO法人記録と表現とメディアのための組織])、小森はるか (映像作家) + 瀬尾夏美 (画家/作家) 進行 丹羽朋子 (EC活用プロジェクト/NPO法人FENICS) 参加人数 31名 参加費 無料

関連企画2 EC音楽映像傑作選上映会  
「うたと生きている」

開催日時 3月30日④ ①13:00~14:30 ②15:30~17:00 会場 セミナールームAB 参加人数 計25名 参加費 各回500円

## EXHIBITION

観る、やってみる、  
問いつづける

## 展覧会



3



4

1 100号の絵画が並ぶ生活工房ギャラリー 2 江別の劇団「川」による『北の世田谷物語』上演記録 3 機関誌『新雪』をコピー、製本したもの 4 会期中には山形トム氏によるトークイベントも急ぎよ開催 (1~3撮影：大洲大作)



1



2

北の世田谷が  
歩んだ73年

## 新雪の時代

江別市世田谷の暮らしと文化

開催日時 2019年1月26日④~3月10日⑥ 9:00~20:00 会場 生活工房ギャラリー 来場人数 10,403名 協力 江別市総務部総務課(市史・行政資料)

関連企画1 レクチャー  
「空襲と移住  
——焼け出された人々の記憶をめぐって」

開催日時 2月11日⑥ 14:00~15:30 会場 ワークショップルームA 講師 木村豊 (筑波大学人文社会系研究員) 参加人数 23名 参加費 500円

関連企画2 トークイベント  
「山形トム、自作を語る。」

開催日時 2月17日⑥ 11:00~11:30 会場 生活工房ギャラリー 参加人数 35名 参加費 無料

関連企画3 特別上映  
劇団「川」第35回公演「北の世田谷物語」

開催日時 3月9日④、10日⑥ ①11:00~14:00 ②15:00~18:00 会場 ワークショップルームB 参加人数 計51名 参加費 無料

1945年7月、空襲により移住を余儀なくされた世田谷区民がいた。食糧増産と住宅不足の解消を目的とした「拓北農兵隊」の江別隊として、北海道江別市角山地区に渡った33世帯。現在も世田谷部落と呼ばれるこの地で人々が拓いた暮らしを、開拓2世の農民画家・山形トム氏の絵画と、青年会が発行した機関誌『新雪』をはじめ住民自ら書き残した言葉で迎える初の展覧会を開催した。

山形トム氏は1996年に私設ギャラリー「北の世田谷美術館」を設立したが、惜しくも2015年に焼失してしまう。本展では、アトリエに残った作品と世田谷区所有の絵画の計9点を展示。身近な暮らしの風景、とくに農業から着想を得た作品が、失われた開拓当時の資料に代わって「世田谷」の風土や暮らしを伝える。会期後には、江別市で里帰り展示も行った。

1949年の『新雪』巻頭言には、機関誌をとおして「土に立脚した完全なる文化人が生まれ」とある。文化や芸術といった教養を大切に故郷喪失者に、現在の世田谷はどのように映るだろうか。



1 ミクロネシアの帽子を編むラボ 2 カバ猟を研究するラボ 3 世界のあやとりをやってみるラボ 4 仮面をつくって考えてみるラボ (1 撮影: 中川周)

## 映像のフィールドワーク展

20世紀の映像百科事典をひらく

関連企画3  
ECラボラトリーズ!

会場 展覧会場内 参加人数 計198名 (3月31日現在)  
参加費 無料

**3.16 SAT** レプリカを作ってみる。ミクロネシアの漁師の帽子を編む。〈ゲスト研究員〉本間一恵 (縄文のかごを再現したバスケタリー作家)

**3.20 WED** カバを狩って食べる!? ニジェールの「カバ猟」を研究者に聞く。〈ゲスト研究員〉佐久間寛 (アフリカ地域研究、人類学者)

**3.23 SAT** やってみたい、世界のあやとり。北極や南米、ニューギニア 〈ゲスト研究員〉野口とも (国際あやとり協会)

**3.26 TUE** 「顔」ってなんだろう? 仮面を作って、かぶって、考えてみる。〈ゲスト研究員〉藤山麻美 (こども美術造形教室を主宰して30年)

**3.27 WED** 映像を観ながら作って食べる実験①「マニオク (キャッサバ) の平パン」は本当に作れるのか?

**3.28 THU** もしも洗濯機が無かったら? 比べてみよう、昭和の洗濯・北アフリカの洗濯。〈ゲスト研究員〉小林こずえ (昭和のくらし博物館学芸員)

**3.29 FRI** 映像を観ながら作って食べる実験②ルーマニアの「ママリガ」(トモロコシ粉料理)

**3.31 SUN** 映像の中のチベット人と一緒に踊ってみたい…。〈ゲスト研究員〉佐藤剛裕 (チベット僧院に弟子入りした研究者)

**4.2 TUE** 音を出してみる実験① 映像に耳を澄ます。音のない映像に音を聞く。思い巡らす。〈ゲスト研究員〉松村拓海 (フルーティスト、作曲家)

**4.3 WED** 粘菌ってどんな生きもの? 〈ゲスト研究員〉増井真那 (変形菌研究一筋10年以上の高校生)

**4.5 FRI** 音を出してみる実験② みんなのリズムで一つの音楽をつくる「パリの音の世界」〈ゲスト研究員〉増野亜子 (自ら演奏する民族音楽者)

**4.6 SAT** 映像アーカイブの歴史と現在について聞く。〈ゲスト〉原田健一 (新潟大学地域映像アーカイブ研究センター)、岡田一男 (東京シネマ新社)

イベント  
エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ上映会  
「住処をつくる」

開催日時 2018年11月11日 @ 14:00~16:30 会場 ワークショップルームA トーク 岡啓輔 (鐵鯨齋ル・一級建築士) 参加人数 63名 参加費 1,000円

目的から解放された  
ガラクタたちが奏でる音の世界



1



4



3



2



5

1 選んだ楽器で音を試す 2 ティコボのガラクタ音楽会 3 元々どんな役割があったモノ？そしてどんな音？  
4 子ども用スキーストックなどから創作された楽器 5 講師の山口とも氏

いつもは捨てられてしまっ、身のまわりの「ガラクタ」から楽器を創作するワークショップと廃品打楽器グループ「ティコボ」の音楽会を開催した。

前半は、持ち寄った不用品から、子どもたちがオリジナル楽器を創作。「作った楽器の素材は元々どんな役割があったのか」また「どんな音がするのか」、一人ひとり発表を行った。

後半の音楽会では、本格的な廃材楽器によるプロの演奏に加え、子どもたちが出演者と新聞紙を破いたりワークショップでつくったペットボトルのマラカスでセッションしたり、興奮冷めやらぬまま終演した。

「家でも色々なモノの音を研究してみたい」という声もあり、生活の中でモノを消費するだけでなく、その構造や仕組みなどに興味をあげるきっかけとなった。創造力を働かせて新たな観点で捉え直すと、身のまわりの役割を終えたモノが、思いもよらない別の輝きを放つモノへ変身することを、アーティストと一緒に楽しく体験する1日となった。

WORKSHOP

ワークショップ



タイトル「自由な恋」

タイトル「Relative emotion」

タイトル「いつだってやり直せる」

時に朝日、時に夕陽、  
14歳の心模様

今年、台風の影響で3日間のところ2日間の制作となったが、その分現場は熱気を帯びた。自分の心模様を探りてイメージを形にし、布へのプリントまでを行った。生地は縫製工場でワンピースに仕立て、参加者のもとへ送られる。

1か月後の「撮る・撮られる」を体験する撮影会も大盛り上がり。現場でのワンピースに寄せた14歳の言葉を紹介する。「同じ言葉も、受け止め方感じ方で変わる、それは光のよう」「紫 むかむか、緑 びくびく、雫 泣いてる、赤 怒ってる、黄 ときめき」「14歳は鎖」「aino、人生の中で楽しむことが一番大事」「はしやぎすぎたりして悲しくなる」「間違ってもいつだってやり直せるから、楽しく生きていこう」「悲しい、人に見せたくないから、ほかの人を悲しくさせちゃう」「同じ形だけど、こちらは空、こちらだと花」「うれしいが、悲しいを押し上げてくれる」「明け方の空、人生も朝日のように希望にあふれるような」。



飛田先生・三橋先生とみんなで記念撮影!

夏の子どもワークショップ2018  
14歳のワンピース

開催日時 2018年7月27日⑤、29日⑥ 10:00~17:00 [制作]、8月25日④ 13:00~17:00 [撮影会] 会場 ワークショップルームAB 講師 飛田正浩・三橋菜穂子 (spoken words project) 対象 中学2年生女子 参加人数 15名 参加費 4,000円 協力・撮影 池田晶紀 (ゆかい)

関連企画 夏の子どもワークショップ2017報告展「14歳のワンピース展」  
開催日時 2018年4月19日④~5月13日⑥ 9:00~20:00  
会場 生活工房ギャラリー 来場人数 3,511名



夢の島を食べちゃおう!



1



2



3

1 宝石の海になるカラフルなゼリー 2 野菜を切り抜いて星をつくらう 3 食べられる島の完成!

探検家になった気分です。食べられる島を想像してつくる、夢のワークショップ。1日目は島の地図を描いてイメージを膨らませ、いろいろな食材を調理して、島のパーツをつくった。食材の色彩や触感、香り、そして何より味わい。料理は私たちの五感をフル回転させてくれる。

2日目はキャプテン（講師）の掛け声で、皆で大きな地図に料理を盛り付け。チョコレートのシフォンケーキでできた火山、レタスの森、バゲットの船、宝石の海、ポテトサラダやキャロットラペの山、ピクルスキャンニオン、ひよこ豆とビーツのピンク沼、きな粉の砂を掘り起こすとメレンゲの恐竜の化石クッキー!? など楽しいエディブル・アイランドをつくり上げた。

「皆でつくった島は、食べたらなくなってしまっけど、記憶には残ります。食べ物、味だけでなく空間、そして思い出をつくるものです——講師からのメッセージの通り、皆で夏の最高の思い出をつくることのできた。

夏の子どもワークショップ2018  
食べられる物語  
——エディブル・アイランド!

開催日時 2018年8月27日① 13:00~17:00、28日② 10:00~16:00 会場 ワークショップルームA 講師 宮川園（たべもの建築家） 対象 小学3~6年生 参加人数 23名 参加費 1,000円

食×科学×アートの大実験教室



2



3

1 ポップコーンがはじける様子を観察しよう 2 相棒はどんな顔? 3 ココアやチーズなどいろんな味を楽しもう



1

夏の子どもワークショップ2018  
日常探検LABO  
——ふくらむ! ポップコーンのふしぎ編

日常の中にひそむ不思議を探検するワークショップ。今年はおいしいポップコーンが膨らむ秘密を皆で探った。ポップコーンは、普段私たちが食しているスイートコーンとは違う「爆裂種」という品種のトウモロコシからつくる。熱を加えると、トウモロコシの中の水分が水蒸気になって体積が大きくなり、約20倍に膨らんで殻を破る。

はじめは実験と観察。ピーカーの中でトウモロコシが破裂する瞬間を観察して、ワークシートに書き込んだ。トウモロコシの量や破裂までの時間の計測、種に触れる、嗅ぐ、できたてを味わうなど、体験することから、たくさん発見をして、そして新たな問いが生まれてくる。

次に「日常探検家」の相棒となる「ポップコーン星人」を工作して、カラフルで賑やかなポップコーンケイスをつくった。いろいろな味のポップコーンを詰める時は大盛り上がり。食べることをデザインすること、その楽しみを味わった。



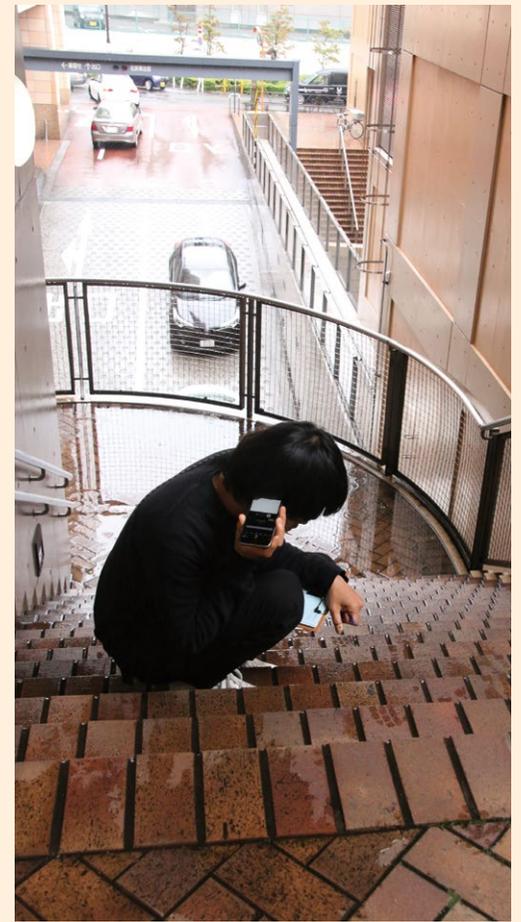
みんなポップコーン星の仲間たち

開催日時 2018年8月12日① 11:00~13:00 ② 15:00~17:00 (各回完結) 会場 ワークショップルームAB 講師 日常探検LABO (おかだゆか+西村隆ノ介+遠山美月) 対象 小学3年生~中学生 参加人数 計44名 参加費 1,000円



- I【Talk: 私たちは日常空間を  
どのようにとらえているか】《理論》  
開催日時 2018年9月9日④ 13:00~15:00 会場 ワーク  
ショップルームB 講師 伊藤亜紗(東京工業大学リベラルア  
ーツ研究教育院准教授) 参加人数 48名 参加費 500円
- II【Workshop: 音】《気づき》  
開催日時 2018年9月29日④、30日④ 11:00~17:00 (各  
日完結) 会場 ワークショップルームAB、三軒茶屋周辺  
講師 永田壮一郎(音楽家/作曲家) 対象 高校生以上で  
録音機能付端末(携帯電話やタブレット等)を当日持参で  
きる方 参加人数 計21名 参加費 1,000円
- III【Workshop: 身体】《実践》  
開催日時 2018年10月13日④、14日④ 11:00~17:00 (2  
日完結) 会場 ワークショップルームB、三軒茶屋周辺  
講師 山崎広太(振付家/ダンサー) 対象 高校生以上で  
両日参加できる方 参加人数 13名 参加費 2,000円
- IV【Documentary: 上映会】《振返り》  
開催日時 2018年12月1日④ 13:00~15:00 会場 ワーク  
ショップルームB ゲスト 三行英登(映像作家/グラフィッ  
クデザイナー) 参加人数 21名 参加費 無料

編集された世界を生きる私たちが  
初々しい日常と再会する



【WS: 音】フィールドレコーディングの様子



1



2



3

1【Talk】伊藤亜紗氏の講演 2【WS: 音】与えられたタ  
スクの種類ごとに、自分がどのように周囲の音を選んでい  
るかを体感 3【WS: 身体】三軒茶屋周辺にて行む

日常を見限らない  
音と身体ワークショップ

研究者やアーティストとともに五感をフル活用し、  
生活の中で起こっていることと丁寧に向き合う方法を  
学び・体験することで、見落とされた無数の日常の出  
来事を味わい直すワークショップ・シリーズ。  
【Talk】は、障害者の空間認識の研究などで注目を  
集める伊藤亜紗氏が、〈環世界〉や〈アフォーダン  
ス〉など本企画の理論的導入となる概念について解  
説。【Workshop: 音】では、音楽家の永田壮一郎氏と  
ともに、自らがどのように周りの音を取捨選択してい  
るのかを体感するワークを三種行った。参加者が街で  
収集した音を元に永田氏が即興で演奏した音楽は、ド  
キュメンタリー内で使用した。振付家の山崎広太氏  
を迎えた【Workshop: 身体】は、街にじっくりと佇  
み、見たり感じたりしたことをフィールドバックしな  
がら、日常/パフォーマンスについて議論を深めた。  
【Documentary: 上映会】では、全行程を撮影・編集  
する映像作家の三行英登氏と、撮影された作品を鑑賞  
しながら全体を振り返った。

8年のこと、  
東京に重ねて、  
読みなおす



1



3



2



4

1 グループごとの発表シーン 2 音に出して言葉に触れる 3 小森はるか氏(左)、瀬尾夏美氏(右)  
4 みんなの8年を重ね合わせる

レクチャー  
「2011-2014年 津波のあとの草はら」  
開催日時 2019年3月16日(土) 14:00~17:00  
参加人数 44名

レクチャー  
「2015-2018年 復興工事とまちの再開」  
開催日時 2019年3月17日(日) 14:00~17:00  
参加人数 35名

会場 セミナールームAB 講師 小森はるか(映像作家)、瀬尾夏美(画家・作家) 参加費 各回500円

身体ワークショップ  
「『記録』から『フィクション』をはじめる/声に出す」  
開催日時 2019年3月23日(土) 13:00~18:00  
会場 セミナールームAB 講師 砂連尾理(ダンサー)  
対象 中学生以上 参加人数 25名 参加費 1,000円



1



4



2



3

1 プラトンの対話篇「アルキピアデス」を朗読 2 コーヒーブレイク中に國分氏と対話する参加者 3 ペア対話では時間を過ぎてても話が弾んだ 4 参加者の質問に耳を傾ける國分氏

## 世界の捉え方を 更新する哲学の夜

### 哲学対話 PARASHIF パラシフ

哲学対話 PARASHIF パラシフ [中動態]  
開催日時 2019年2月2日(土) 19:30~21:30  
参加人数 24名

哲学対話 PARASHIF パラシフ [自由]  
開催日時 2019年2月9日(土) 19:30~21:30  
参加人数 23名

会場 SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY  
哲学者 國分功一郎 参加費 各日4,000円(お茶・お菓子付)

PARADIGM SHIFT = 当たり前前と想っている考え方がガラリと劇的に変わることを。  
本企画は、哲学者との対話から、日々の生活にPARASHIFを起すことを目指す哲学セミナーだ。  
第一夜「中動態」では、古代言語に存在した「中動態」という概念をテーマに、日常生活で馴染み深い「する(能動)」「される(受動)」の二者択一とは別様の世界の捉え方について学び、更に「意志」や「責任」について対話を繰り返す。  
第二夜「自由」では、20世紀にアメリカで活躍した哲学者ハンナ・アーレントや17世紀のオランダの哲学者スピノザにおける「自由」の概念について学び、参加者一人ひとりがこれまで自分の抱いていた自由のイメージを問い直すような活発な議論が生まれた。  
世界を変えることは簡単ではない。しかし「私」の世界の捉え方はいつだって更新していかれる。哲学者や多様な立場の人々との対話が、自らの世界観をアップデートする「日常事変」の契機となることを願いたい。

- 第1回「NPOだからこそできる広報の基礎」  
開催日時 2018年12月4日⑩ 19:00~21:30 講師 吉田知津子（広報プランナー／認定NPO法人ハンズオン埼玉理事） 参加人数 25名
  - 第2回「今すぐ使えるチラシづくりのコツ」  
開催日時 2018年12月11日⑩ 19:00~21:30 講師 千葉晋也（株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役） 参加人数 25名
  - 第3回「伝えるコツ そうだったのか!」  
開催日時 2019年2月12日⑩ 19:00~21:30 講師 鶴保正明（鶴保正明ブランド広告事務所／クリエイティブディレクター） 参加人数 24名
  - 第4回「伝えるコツ プレゼンテーション」  
開催日時 2019年2月19日⑩ 19:00~21:30 講師 鶴保正明 参加人数 16名
- 会場 セミナールームAB 参加費 各回1,000円 共催 世田谷区 生活文化部 市民活動・生涯現役推進課（第1、2回） 企画進行 株式会社世田谷社

ボランティア元年とも称される1995年の2年後にオープンした生活工房では、NPOをはじめとした市民活動に関する講座を毎年開催してきた。現在、世田谷区内のNPO法人に限ってもその数は500団体を超えている。一方それから20年以上の月日を経て、新たな組織課題と向き合っている団体も少なくない。

本講座では、毎年、組織課題を想定したテーマをもとに開催している。今回は「広報」を取り上げ、PRについての考え方から具体的なデザインのコツまで幅広く学んだ。第1回では広報で重要となる「ターゲット」について具体例も交えながら探り、続く第2回ではグラフィックデザインのルールを身につけた。第3回と第4回は、「伝えるコツ」というテキストブックをもとに、広報の考え方からプレゼンテーションの実践まで含む、総合的な内容となった。

いずれもNPOをはじめとする非営利組織に特化して「広報」を学ぶ講座である。参加者それぞれが関わる組織に少しでも活かされたなら、何よりも嬉しい。

NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座  
組織づくりのための  
ヒント／コツを学ぼう!!〈広報編〉

1 広報プランナーの吉田知津子氏 2 実際に配布中のチラシからグラフィックを考える 3 チラシで使える画像データなど具体的な紹介も 4 プレゼンテーションを指導する鶴保正明氏



広報を考えると、  
伝える目的が  
見えてくる

SEMINAR

セミナー

多様化する「情報」を、  
自分の言葉で表現する



1 持ち寄った本から「相手を連想する一冊」を選ぶ 2 3日目の会場は、イシス編集学校「本楼」 3 多様な型を用いて「自分らしさ」について編集する 4 キーブックを集めた「自分らしい本棚づくり」を試みる

開催日時 2019年2月24日⑩、3月10日⑩、17日⑩ 13:00~16:00  
会場 セミナールームAB/イシス編集学校「本楼」 参加人数 24名  
参加費 5,000円(全3回分) 共催 イシス編集学校

関連企画 夏の子どもワークショップ2018  
大好きな本の伝えかた——読書感想文の編集術!  
開催日時 2018年7月21日④、22日⑥ 14:00~16:30(各日完結)  
会場 イシス編集学校「本楼」 講師 イシス編集学校 対象 小学3年生~中学生(親子2人1組) 参加人数 計54名(27組) 参加費 1組1,000円 共催 イシス編集学校

生活工房×イシス編集学校  
情報編集力連続講座 vol.5  
キーワードからはじまる  
「自分らしさ」の編集術

「情報編集力」とは、日々刻々と更新されるさまざまな情報を収集し組み合わせながら、新しい見方や関係性を見出す力のこと。そして独創的な発想とともに、より相手に伝わる表現を創造することである。

この連続講座では、インターネット上に開講されている「イシス編集学校」の基本的な情報編集のプロセスの一端を体験学習する。今回は、自分の中にある多様なキーワードを「情報」として収集し、自身の「クロニクルシート作成」という手法を用いる。それぞれの関係性を見出し、文章として組み立てることで、改めて「自分らしさ」を発見、認識することを目指す。また、小中学生親子に向けた「夏休み子どもワークショップ・大好きな本の伝えかた——読書感想文の編集術!」も開催。お気に入りの本の魅力を自身で引き出しながら、自分の言葉で人に伝えることの楽しさを体感した。



朗読発表会の様子

## 朗読講座

豊かなことばの世界

**開催日時** 年4回（4月期、7月期、11月期、2月期） 各4講座  
（水曜午前・午後、木曜午後、金曜午後） **会場** セミナールームA **講師** 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター **対象** 一般 **参加人数** 195名 **参加費** 20,500円（4回分）、アーツカード会員は18,500円 **共催** 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

### 朗読発表会

**開催日時** 2019年3月3日⑧ 13:30～16:00 **会場** セミナールームAB **参加人数** 101名 **参加費** 無料

## 日本語の豊かさを実感する

日頃何気なく使っている「ことば」は、声の出し方や読み方を練習することで、豊かな表情を持つていたことに気付かされる。

NHK日本語センターのアナウンサーが講師となつて、朗読の基礎から始めながら、表現力の向上を目指して、丁寧に指導した。

「吾輩は猫である」などの馴染み深い名作を題材に取り上げながら朗読することで、日本語の豊かさや美しさを実感できる機会となった。また、本講座の特徴である少人数制のきめ細やかな指導は、初心者、リビーター双方から根強い支持を受けており、各回の受講者が集まって行う「朗読発表会」の会場には、多くの受講者や来場者がつめかけた。

### 取り上げた作品

- 大岡信 「言葉の力」
- 芥川龍之介 「杜子春」「仙人」
- 井上ひさし 「四千万歩の男」
- 立松和平 「海のいのち」
- 宮沢賢治 「セロ弾きのゴーシュ」
- 田中澄江 「花の百名山」
- 太宰治 「津軽」
- 恩田陸 「蜜蜂と遠雷」
- 三浦哲郎 「とんかつ」
- 吉村昭 「梅の蕾」
- 夏目漱石 「吾輩は猫である」

## 区内で活動する、おはなしの会が大集合！

「世田谷おはなしネットワーク\*」と共催する本企画は、今年で18回目を迎えた。毎年、3日間のおはなし会「おはなしいっぱい」と2回の講演会を開催している。おはなし会は、構成、演出、出演、準備のすべてを出演者が行う市民の手づくり企画として回を重ね、夏休み期間の恒例イベントとして、多くの親子連れに親しまれている。幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、素ばなし、手遊び、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な演目を披露した。

2回の講演会では、絵本作家や元学校司書を招き、つくり手の想いや子どもたちに読書の魅力を伝えるための実践的な方法を伺い、演者としての造詣を深めた。  
\*1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、60のグループ・個人会員から成る。

## おはなしいっぱい

**開催日時** 2018年8月22日⑧ 11:30~15:00、23日⑧・24日⑨ 11:00~15:00 **会場** ワークショップルームAB **出演** 18グループ **来場人数** 1,496名 **共催** 世田谷おはなしネットワーク **協力** 世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館

**関連企画1 講演会**  
「絵本と鳥の巣の不思議」

**開催日時** 2018年6月21日⑧ 13:00~15:30  
**会場** セミナールームAB **講師** 鈴木まもる (絵本作家・鳥の巣研究者) **参加人数** 101名 **資料代** 100円

**関連企画2 講演会**  
「ブックトークPart1~子どもと本との出会いの場をつくる」

**開催日時** 2018年11月20日⑧ 10:00~12:00  
**会場** セミナールームAB **講師** 青木淳子 (元学校司書) **参加人数** 82名 **資料代** 100円



1



2

1 繰り返し見ることで新たな発見も 2 映像に出てきた債券を持参する参加者 3 ウェブサイトもお披露目した



特設ウェブサイト  
<http://ana-chro.setagaya-ldc.net>

**関連企画1**  
せたがやアカブの会  
**開催日時** 2018年6月20日⑧・8月29日⑧・10月24日⑧・12月5日⑧ 19:00~20:30 **会場** ワークショップルームA **参加人数** 63名 **参加費** 無料

**関連企画2**  
8ミリフィルム鑑賞会 特別編  
**開催日時** 2019年3月10日⑧ 14:00~15:30 **会場** ワークショップルームA **進行** 松本篤 (remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]) **来場人数** 56名 **参加費** 無料

## 8ミリフィルムをみる、はなす、のこす

2015年から開始した「穴アーカイブ」は、世田谷区の一般家庭に眠る8ミリフィルムを募集し、昭和の暮らしが記録された映像を多くの人と共有するアーカイブ・プロジェクトだ。フィルムのデジタル化を進めるとともに、記録に残っていないこと、すなわち記録の不在(穴)にも着目している。

この記録の「穴」を確認したり、埋めたりする「せたがやアカブの会」という少人数制の上映会を隔月開催している。映画館や自宅とも異なるこの集いでは、ファシリテーターのゆるやかな問いかけとともに、おののが思い出した当時の話や撮影場所や被写体についての推理が語られていく。記録の「穴」をめぐる、こうした記憶や想像の交換によって、同じ映像でも見え方がうつつり変わる。

さらに今年度は、これまでに集まった84巻の映像を特設ウェブサイトで公開し、ポストカードを模した目録も作成した。このツールをもとに、地域に根ざした映像の利活用を探っていく。

## 穴アーカイブ: an-archive



1

1 会場が一体となって手あそびを楽しむ 2 音楽にあわせて絵本を朗読する児童館の子どもたち 3 鈴木まもる氏の講演 4 青木淳子氏の講演



3



4



2

## 手づくりアートの「のみの市」

2003年の開催から数えて15年。2018年秋に30回目を迎えた「世田谷アートフリマ」は、ハンドメイドの日用雑貨や玩具などのクラフトから、イラストなどのアートワークまで並ぶ「のみの市」だ。個人で制作している作家がお店番をしながら、販売している「もの」を介した交流の場として毎

年春と秋に開催している。記念となる30回目の「アートフリマ」では、本イベントのマスケットキヤクター「せたがやじん」による握手会の開催をはじめ、誕生秘話を綴った小冊子やオリジナルの缶バッジを配布。ものづくりを介したコミュニケーションを盛り上げた。



握手会中のせたがやじん

## 世田谷アートフリマ

### 開催日時

[vol.29] 2018年4月21日(土)、22日(日)  
11:00~17:00  
[vol.30] 2018年9月22日(土)、23日(日)  
11:00~17:00

会場 ワークショップルームAB/セミナールーム  
AB/市民活動支援コーナー 来場人数 [vol.29]  
約4,000名 [vol.30] 約4,500名 共催 世田  
谷アートフリマプロジェクト 協力 世田谷233、  
TSUTAYA三軒茶屋店

40代男性の声——世田谷アートフリマ30回おめでとうございます!!

## 地域と市民活動

## 世田谷の市民活動、応援します

世田谷は、市民活動が盛んだ。NPOやボランティア団体など、さまざまなグループが活動している。世田谷市民活動支援会議は、「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワーク。行政である世田谷区と、施設や助成金の提供など、多様な形で活動を支える中間支援団体で構成されている。3回の連絡会議を開くとともに、図書館や青少年活動支援といった機能も併せ持つ「武蔵野プレイス」(武蔵野市)を見学し、市民活動支援機能を持つ場所の在り方を考察した。

## 世田谷市民活動支援会議

### 他の構成団体

世田谷区生活文化部市民活動推進課、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、NPO 昭和、NPO 法人まちこらぼ



「武蔵野プレイス」視察の様子

## 国際交流 IN せたがや2019

開催日時 2019年2月16日(土) 13:00~15:45 会場 ワークショップルームAB 来場人数 339名 参加費 1,000円 共催 世田谷海外研修者の会

各国のブースは大賑わい



市民活動支援コーナーは、区内の市民活動団体が登録して利用している「活動の場」。運営を委託するNPOとともに市民活動の活性化を進めている。日常的な打ち合わせに活用するほか、印刷スペースや、幅広い分野の団体活動情報も掲示している。今年も利用団体が制作した作品展示

さまざまな市民活動団体の日常をサポート!!



ハロウィンの飾りつけも楽しいパオフェスタ

## 市民活動支援コーナー

場所 生活工房3F 開催時間 9:00~21:00 (月曜休み) 委託先 特定非営利活動法人国際ボランティア協会 (IVUSA) 来場人数 22,394名

関連企画1  
パオフェスタ2018 市民活動体験喫茶パオ  
開催日時 2018年10月20日(土)、21日(日) 11:00~18:00  
会場 市民活動支援コーナー 参加団体 20団体 来場人数 621名

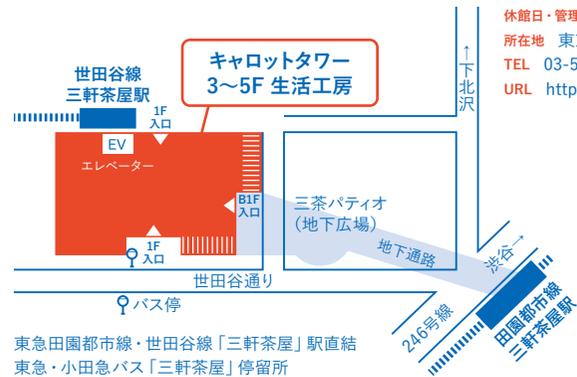
関連企画2  
市民活動支援コーナーの日々展2018  
開催日時 2018年3月23日(土)~4月15日(日) 9:00~20:00  
会場 生活工房ギャラリー 来場人数 3,040名

と、一週間の活動を日記風に紹介した「市民活動支援コーナーの日々展」、秋の文化祭的イベント「パオフェスタ2018」を開催。年間を通じて各団体同士が交流を深めた。専門性を活かしたさまざまな団体の活動は、魅力ある地域づくりに重要な役割を担っている。

## 世界の二員として、ともに楽しみましょう!

生活工房では、区民団体による国際交流事業を共催としてサポートしている。今年度、第29回目を迎えた「国際交流INせたがや」は、在日外国人との文化交流の場をテーマにした区民による国際交流事業で、各国の大使館大使、書記官も来賓に迎え、会場は多くの来場者で賑わった。

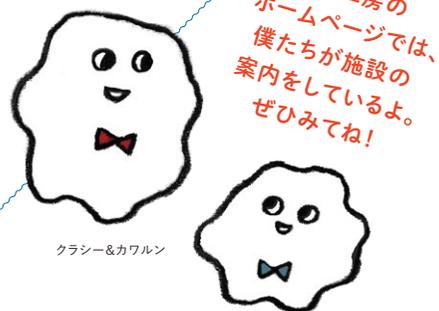
世界各国のPRブースでは、各国の多彩な文化の紹介とともに、特産品の販売も人気を博した。また、カンボジア舞踊の実演やヴァイオリン演奏による日本歌曲をはじめ、お茶や和服の着付けなど日本の伝統文化を体験するコーナーも好評で、区民と在日外国人の交流を深めた。



生活工房へのアクセス

東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅直結  
東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所

休館日・管理休館日 年末年始・月曜日（貸出施設のみ。祝休日の場合は除く）  
所在地 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー  
TEL 03-5432-1543  
URL <http://setagaya-ldc.net/>



クラシー&カワルン

生活工房のホームページでは、僕たちが施設の案内をしているよ。ぜひみてね!

トップページ > 施設のご案内 > クラシーとカワルンの「生活工房っていったいどんなところなの?」

生活工房は、地域の人々の活動や発表の場!

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせください。

セミナールームA 74㎡/定員48名  
利用時間9:00~22:00



セミナールームB 83㎡/定員48名  
利用時間9:00~22:00



講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。

5F

ワークショップルームA 126㎡/定員50名  
利用時間9:00~22:00



ワークショップルームB 145㎡/定員50名  
利用時間9:00~22:00



ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルームA」は、「ものづくり」やトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63㎡）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動式展示パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

4F

生活工房ギャラリー 利用時間9:00~20:00



市民活動支援コーナー 利用時間9:00~21:00



生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です（有料）。

3F

2018年度に行った事業の中で最もつづやかれた展覧会は、鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展「鳥の巣がおしえてくれること」(P.38)でした。昼夜問わずたくさんいただいたコメントの中から一部抜粋してご紹介します。

17:07 - 8.26

生活工房での鈴木まもるさんの原画展でセアカカマドリの巣を触らせてもらった。おそるべし鳥さん。

17:57 - 8.26

本日最終日『鳥の巣がおしえてくれること』ギリギリ間に合ったよ(´θ`)/ 鈴木先生の話しも面白かったし、めっちゃ楽しい! もっと早く行っとけば良かったw

20:13 - 8.24

絵本作家で鳥の巣研究者でもある、鈴木まもるさんの生き物・野鳥への愛情とつよい興味を感じられる展覧会でした。

18:30 - 8.23

今日のメインイベント～ キャロットタワー3階生活工房ギャラリー「鳥の巣がおしえてくれること」

12:03 - 8.23

鈴木まもるさんの「鳥の巣がおしえてくれること」於：生活工房(三軒茶屋)を見てきました。鳥の造形力の素晴らしさよ。

22:42 - 8.18

ミニ展示なんだけど、おもしろくて可愛い。鳥さん偉い。鳥さん賢い。鳥の巣を見て人が真似たのかも色々。嘴でこれらを作り上げる鳥に比べてこの手のなんと不器用なこと。人って何にもできないんだなあと思うよ。

22:17 - 8.13

面白い形や素晴らしい機能を備えた本物の鳥の巣がたくさん。鳥や生き物好きな子どもや大人の皆さんに、是非おすすめします。入場無料。

22:39 - 8.10

クモの巣の糸で編んだ巣や羊毛を使った巣の実物は驚きで興味深かったし、精密で色合いが素敵な原画やスケッチ画が沢山見れました! 図鑑もじっくり読んでみたいな♡

19:18 - 8.10

たまたま見かけて入ったけど面白かった。鳥の巣研究者でもある絵本作家・鈴木まもるさんの絵+考察つき鳥の巣コレクション。滅多に見れない巣がいっぱい。入場無料。\*接写以外は撮影OK

18:30 - 8.9

以前仕事で鈴木さんの絵本作品を知り、今回原画を見る機会に恵まれました。実物の鳥の巣も展示されていて、面白かった。前回の折り紙展も面白かったし、三茶に寄った際は生活工房をちょこちょこ覗いてみるつもり。

18:49 - 8.7

『鳥の巣がおしえてくれること』コトリスキーとしては行かないわけにはいかんでしょう。

18:50 - 8.6

面白い形や素晴らしい機能を備えた本物の鳥の巣がたくさんで大興奮! 鳥や生き物好きな子どもや大人の皆さんに是非おすすめします。

17:38 - 8.5

鈴木まもるさんの絵本原画と、本物の鳥の巣が展示されている。鳥の巣は、鳥の家だと思っていたが、そうではなく、おかあさんのお腹の中のような機能を果たしているらしい。いろんな形の鳥の巣があった。

19:01 - 8.3

なるほど、面白い!! また新たな発見をしたし、やっぱり見に来て良かった(´▽`)

15:28 - 8.3

「鳥の巣がおしえてくれること」とってもおもしろかった! 目からウロコ。

22:29 - 8.2

蜘蛛の糸で葉を縫ったり、羊の毛をフェルト化させたり、フェイク入り口作った構造になってたり、土壁の巣作ったり鳥凄すぎた。

0:49 - 8.2

これはいかないとだめなやつだ。

9:57 - 7.29

すごい面白い! きれいな! かたちかわいい! 鳥の巣が家ではなくてお母さんのお腹のようなものだって初めて知った

12:20 - 7.27

駅前の掲示板にチラシが貼ってあるのを見つけたのだけど、これは楽しそうだ! 小学生は鳥の巣をつくるワークショップも。いいな!

23:37 - 7.23

だいすき、生活工房。鳥の巣、やばい!!!

23:38 - 7.22

イラストだけだと思っていたので、ほんものの巣の展示もあってびっくり&すごくよかった

20:01 - 7.22

三茶の生活工房でやってる「鳥の巣がおしえてくれること」という展示がよかった! 鳥の巣すごい!!!

15:10 - 7.21

鈴木まもるさんの鳥の巣展に来ています。本当に素敵なので超オススメです。



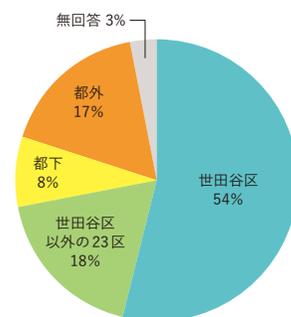
来場者数

来場者総数	132,017人
展覧会	55,601人
ワークショップ	353人
セミナー・イベント	1,167人
地域と市民活動	34,912人
貸館使用者・来場者	39,984人

事業数

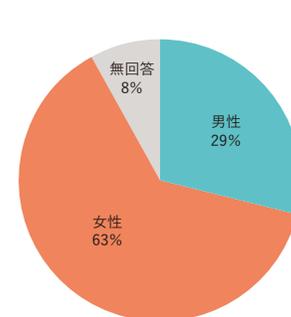
事業総数	72件
展覧会	9件
関連イベント	30件
ワークショップ	8件
セミナー・イベント	11件
地域と市民活動	14件

来場者の住まい



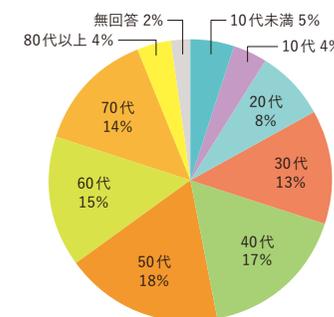
世田谷区外からのご来場が半数近くを占めています。そのほかの割合とともに、ここ数年大きな変化はありません。

来場者の男女比



男性のご参加者が少しずつ増加傾向にあります(本年度半ばから、性別欄を男女2択ではなく自由記入方式にしました)。

来場者の年代

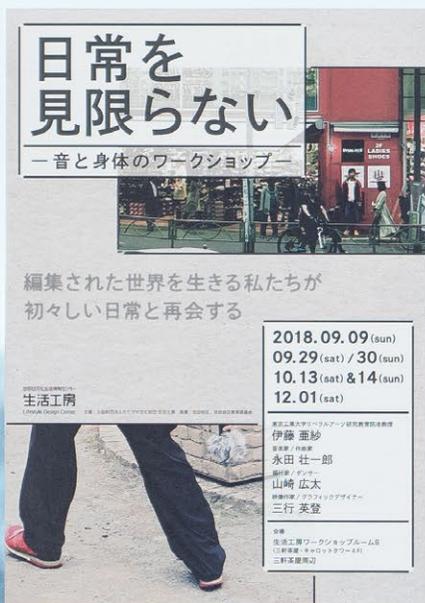
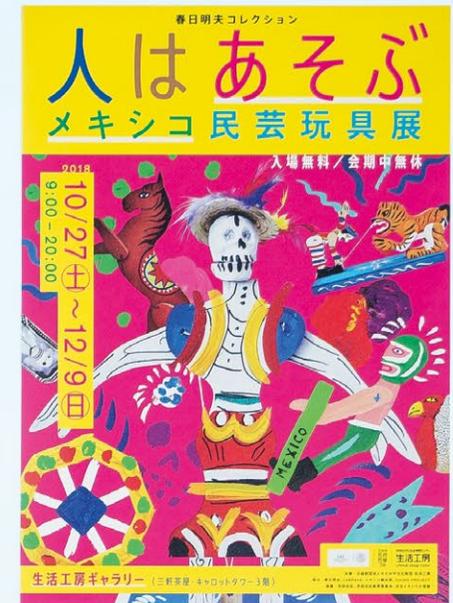


40代~70代のご参加が増えていきます。「新雪の時代」展など、同時代をきた人々に共感してのご来場が多かったようです。

# フライヤー コレクション 2018-2019

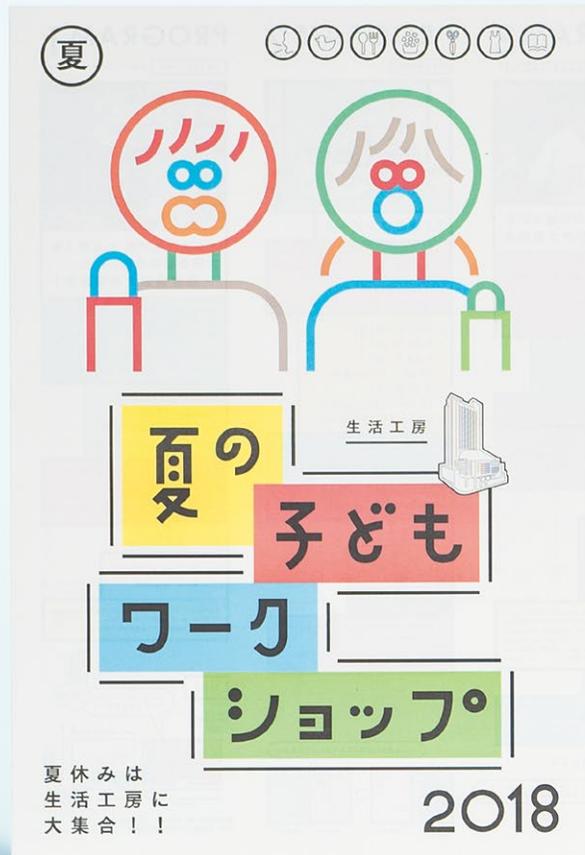


夏の子どもワークショップ2017 報告展 14歳のワンピース展 デザイン: 渡辺明日香  
プライベート・コレクション展 協力者募集中 デザイン: 藤井龍  
眞田岳彦ディレクション 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて デザイン: 山根恵美  
折紙生活展——もしも折紙が日常に折り込まれたら!? デザイン: 浦川彰太



哲学対話 PARA SHIF バラシフ デザイン: 福岡南央子  
 新雪の時代——江別市世田谷の暮らしと文化 デザイン: 松田洋和  
 日常を見限らない——音と身体のワークショップ デザイン: 中居真理  
 2020年開催展覧会・企画画「陸前高田の記録を読みなおす / 声に出す」 デザイン: 隅井研太

春日明夫コレクション 人はあそぶ——メキシコ民芸玩具展 デザイン: 上杉滝、上杉咲 (株式会社ノット・フォー)  
 エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ上映会「住処をつくる」 デザイン: 大橋祐介  
 クライム・エプリ・マウンテン vol.2「漆がつなく、アジアの山々」 デザイン: direction Q  
 鈴木まもる・絵本原画と鳥の巣コレクション展「鳥の巣がおしえてくれること」 デザイン: といのきデザイン事務所 絵: 鈴木まもる



共催

イシス編集学校、(一財)NHK放送研修センター日本語センター、NPO 法人国際ボランティア学生協会、世田谷アートフリマプロジェクト、世田谷おはなしネットワーク、世田谷海外研修者の会、世田谷区生活文化部 市民活動・生涯現役推進課、(株)デイズジャパン

協力

NPO 法人アートフル・アクション、ECラボひも部、ECわらしべ調査隊、岩崎書店、江別市総務部総務課（市史・行政資料）、王塚装飾古墳館、折紙創作集団スクエア、金の星社、熊本県立装飾古墳館、国際あやとり協会、滋賀県立安土城考古博物館、(公財)下中記念財団、昭和のくらし博物館、女子美術大学芸術文化ゼミ（芸術人類学）、女子美術大学美術館、SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY、世田谷おはなしネットワーク、世田谷区立郷土資料館、世田谷233、世田谷区立児童館、世田谷区立中央図書館、NPO 法人丹波漆、CHIDO PROJECT、TSUTAYA 三軒茶屋店、東京工芸大学芸術学部ソフトウェアデザイン研究室、(株)東京シネマ新社、TOMO OFFICE、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、NPO 法人 FENICS、(株)ポレポレ東中野、メキシコ観光局、柳とあそぼう引地川、(株)ゆかい、LABRAVA

後援

世田谷区、世田谷区教育委員会、在日メキシコ合衆国大使館

生活工房アニュアルレポートとは——生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。



生活工房アニュアルレポート2018  
発行日：2019年4月20日

編集協力：杉本勝彦  
デザイン：片山中蔵

印刷：三永印刷株式会社  
協賛：株式会社東急コミュニティー

編集・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房  
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー  
電話：03-5432-1543 ファックス：03-5432-1559  
メール：info@setagaya-ldc.net  
http://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。  
©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2018-2019  
Printed in Japan

生活工房 2019年度事業（4～6月）のご案内

4月20日㊤・21日㊤  
世田谷アートフリマ vol.31

4月27日㊤～5月26日㊤  
世田谷線にのって展

6月13日㊤  
第44回世田谷おはなしネットワーク講演会  
わらべうた絵本と私～ましませつこさんの世界

6月15日㊤～7月15日㊤㊤  
プライベート・コレクション展

6月22日㊤  
火と人の上映会 vol.1「火の星に生きる」

6月29日㊤  
火と人の上映会 vol.2「火と食べもの」

※詳細はホームページをご覧ください。



「映像のフィールドワーク展 20世紀の映像百科事典をひらく」会場風景 撮影：中川周